

9月に突然、本館に登場した イラストの遺愛生



本館廊下に登場



講堂に続く廊下に登場

遺愛の本館工事も順調に進み、解体・調査もほぼ終了に近づいてきています。9月の始めに文化庁の調査官が遺愛を訪問し進捗状況を確認していただきました。だいたい予定通りに進んでおり、これから組み立てに入っていきます。

築113年の本館は、この113年間にいろいろ手を加えられたり、変わった場所がいくつもあります。今回の工事では、できる限り出来た当時に戻すというのが一つのコンセプトになっています。かつてホールに近い側に曲がり階段があったのですが、それは教室を作るために撤去されていました。また、2階のバルコニーへの出口はかつては廊下になっており、なかの廊下まで外の光が入ってきていたのですが、資料室になってしまい2階はすっかり暗くなってしまいました。また、ボイラー室も役目を終えて、ずいぶん部屋の感じが変わりました。それらは完成当時に戻す予定ですが、11月の末までに文化庁で許可するかどうかを決定します。

そんな折突然、明治時代と現代の遺愛生がイラストで本館廊下、講堂廊下に登場しました。工事を担当する高橋組さんの粋なはからいでした。



←現在の遺愛生
(高校パンフより)



←明治・大正時代の遺愛生

2020年9月4日(金)